

事故を起こすと 何がどう変わるのか？

(中 部) H運輸株 S. S

8年前の5月中旬、よく晴れた穏やかな日の出来事でした。当時ドライバーから配車担当に変わってすぐの私は、消防署から掛かってきた1本の電話の内容に息を飲みました。

私が勤めているのは、運送会社ですがクレーン車も保有しており、消防署は災害時や事故等の緊急時に、我々の様な民間の会社にクレーン車の緊急要請を行う事があります。1本の電話は正にその緊急要請の電話でした。

「すぐ近くの県道でトレーラーが横転したのでクレーン車で吊り上げ立て起こしてもらえますか？」

「1台の乗用車がトレーラーの下敷きになっているので、とにかく今すぐ現場に来て下さい！」と緊迫した声で要請されました。

私は、社内で昼休み中のドライバー全員を集め、ありったけのワイヤーを準備し、自らクレーン車に乗り現場に向かいました。現場に到着した私が見たものは、映画でしか見たことの無い様な悲惨な状況でした。

歩道にはカメラを向ける大勢のマスコミ。上空には旋回するヘリコプター。そして横転しているトレーラーの下敷きになっていた乗用車は通常、人の背丈位の車高ですが、私の腰より低い位置まで潰されていました。

「聞こえますかー？聞こえますかー？」と叫ぶ様にレスキュー隊員が声を掛け、乗用車に乗っていた方はブルーシートで周りを囲われながら救出されました。残念ながら乗っていた3名の内、2名は亡くなり、救出された1名は重傷との事でした。私達はトレーラーを立て起こす作業に取り掛かる前、黙祷を捧げ悲惨な現状を目の前にしながら作業をしたことを覚えています。

一瞬にして3名の死傷者を出した大事故。この事故はトレーラーに積載した「貨物の固定状況を目視確認する」という、単純な作業を怠った為に起きました。

トレーラーを運転していたドライバーは、自動車運転過失傷害で現行犯逮捕され、自動車運転過失致死傷罪で起訴。裁判は事故から4年を過ぎても続いていました。この大事故、大惨事を目の当たりにする以前の私は、自社のドライバー達に対し、「気を付けてね！事故はしないようにね！」と毎日声を掛けて送り出していました。今思えばそれは、毎日する挨拶の様なものだった気がします。事故を起こすと自分と相手、またその家族や大勢の関係者がどうなるのか？という事を全く考えずに声を掛けていた自分でした。

この出来事以来私は、当社で毎月行う会社安全会議の席で、ドライバー達にそれまでとは違ったことを伝えるようになりました。

それは、「事故を起こさない運転方法」よりも、「事故を起こすと何がどう変わるのか？」です。

「事故を起こさない運転方法」は、プロのドライバーであればみんな知っています。しかし、「事故を起こすと何がどう変わるのか？」という事は、プロのドライバー程、知っていなければならない事と思います。大惨事を目の当たりにした私だからこそ、そこを重点的に伝えたいと思いました。

- 事故を起こすと自分が突然犯罪者に変わり、逮捕されることもあります。
- 事故を起こすと相手の人生を狂わせ、その家族の人生も狂わせます。
- 事故を起こすと自分と自分の家族の人生も狂わせます。
- 事故を起こすと顧客からの信頼も落ち、会社の経営にも影響を及ぼします。
- 事故を起こすと自分の大好きな仕事を失うこともあります。等々。

事故を起こすと・・・と考えると、数えればきりが無い程様々な例が出てきます。こういった例を具体的にイメージすることによってドライバー、1人1人の意識が変わり、行動が変わって来ると思います。

「事故を起こすと何がどう変わるのか？」をイメージし、「事故を起こさない為にはどうすれば良いのか」と常に意識を持てば、安全確認は自ずとしっかり行うことが出来る様になります。それが習慣化されて、初めて安全な運転が継続出来る様になると私は考えます。

私は今でも鮮明に覚えています。8年前のあの悲惨な現場を。そしてその日から安全教育方法を考え直しました。

事故を起こさない、起こさせない為には、常日頃から「起きてはいけない最悪の状況」をイメージすることで未然に防ぐことが出来るのです。運行管理者となった今、「事故を起こすと何がどう変わるのか？」を常に考えております。